

平成19年5月9日

## 米国自転車市場レポート2007年5月号

(GTG Gluskin Townley Group が財団法人自転車産業振興協会向けに作成)

### 米国自転車市場情報

#### 輸 入

2007年4月の報告で述べたとおり、輸入は米国自転車市場を定義づけており、2000年2001年は輸入が米国市場の98%、2002年から2006年には99%を占めている。

表1は2007年の年初2ヶ月の米国自転車輸入と2006年の同時期との比較を示したものである。

表1 年初2ヶ月間の米国自転車輸入 2007年及び2006年との比較

1～2月 HS番号8712	2007		2006		変化	
	台数	FOB US\$	台数	FOB US\$	台数	FOB US\$
1510 19-inch 以下	587,786	\$15,074,988	608,990	\$12,767,216	-21,204	\$2,307,772
1520 20-inch	628,496	22,130,202	583,949	20,404,982	44,547	1,725,220
1550 24-inch	148,391	10,005,382	241,995	12,108,641	-93,604	-2,103,259
2500 27 inch & 700c	174,088	41,411,721	111,152	34,299,681	62,936	7,112,040
3500 26 inch	763,807	67,370,098	701,207	58,581,886	62,600	8,788,212
その他	45,362	2,590,344	22,549	1,668,256	22,813	922,088
計	2,347,930	\$158,582,735	2,269,842	\$139,830,662	78,088	\$18,752,073
対前年比 %	+3.4%	+13.4%				
平均単価 US\$		\$67.54		\$61.60		\$5.94
対前年比 %		+9.6%				

出典：米国商務省

全体では自転車の輸入は台数で3%少々増加したに過ぎない。このこと自体は注目に値しないが、これと対応しFOBのドル価格が13%増加したことは注目に値する。全体の価格の上昇により台当り単価は2006年1～2月の\$61.60から2007年1～2月の\$67.54へと\$5.94上昇した。

2007年の自転車輸入データから結論を導き出すのは、はるかに早すぎることはあるが、2006年は米国自転車市場の下落年であったため、2007年の年初二ヶ月間の輸入状況は比較的積極的な在庫補充を示しているようにもみられる。

年初二ヶ月間の米国市場への上位供給国は変化ない。表2は米国への輸入上位四カ国に加え、参考のため日本の状況を示したものである。

表2 2007年 年初二ヶ月間の米国の自転車輸入 上位供給元四カ国及び日本

供給元国名	総台数	総 FOB US\$	平均単価 FOB Value US\$	総輸入に対する 比率 %
中国	2,225,097	\$116,267,584	\$52.25	94.77%
台湾	111,687	38,872,967	\$348.05	4.76%
香港 (1)	3,357	72,850	\$21.70	0.14%
インドネシア	2,039	310,225	\$152.15	0.09%
日本	517	79,671	\$154.10	0.02%

出典：米国商務省

(1) 脚注 米国商務省はまだ香港からの輸入を、中国からのものと分けて報告している。

中国は2007年1～2月においても米国自転車輸入台数のほぼ95%を占めており引き続き供給元として抜きん出ている。台湾は台数で5%を少し下回っており、これら二つで全ての米国自転車輸入の99.5%を占めている。

興味深いのは、FOBドル価格における、中国からの輸入と台湾からの輸入とについてである。台湾の自転車業界は、自国業界を世界の高級車市場の供給元としての地位に高めるために、A-Teamという戦略プランを作り出した。この戦略は大変上手く機能しており、中国からの輸入に対し、台湾からの輸入自転車の平均FOB単価は\$348となっていることに反映されている。

年初の二ヶ月間に日本で生産されて米国に輸入された僅かの台数の自転車の平均単価は、中国で生産されて輸入された自転車より294%高いが、しかし台湾から輸入された自転車の平均単価より44%も低くなっている。

日本で生産された自転車は、米国の輸入市場では、高値をつけすぎているわけでないことは明らかである。

## 米国の輸出

米国の自転車輸出はあまり注目されていないが、米国の自転車生産の水準がわかるため、また、世界のどの国で米国で生産された自転車ブランドの需要があるのかわかることもできるため、注目するに値する。

表3は2007年年初二ヶ月間の米国自転車輸出を示す。米国の自転車輸出には三つのHS関

税番号しかない。即ち、(8712-)1070：25インチ以下、(8712-)2600：25インチ以上、及び(8712-)6000 車輪径が示されていないもの、大人用及び運搬用三輪車を含み、原動機のないもの、である。

表3 2007年 年初2ヶ月間の米国自転車輸出

HS	国内			海外			計		
	台数	FOB US\$	平均単価	台数	FOB US\$	平均単価	台数	FOB US\$	平均単価
1070	2,488	525,362	\$211.16	1,994	385,763	\$193.46	4,482	911,125	\$203.29
2600	9,589	8,866,137	\$924.62	10,770	3,165,374	\$293.91	20,359	12,031,511	\$590.97
6000	10,636	5,486,702	\$515.86	274	271,532	\$990.99	10,910	5,758,234	\$527.79
計	22,713	\$14,878,201	\$655.05	13,038	\$3,822,669	\$293.19	35,751	\$18,700,870	\$523.09

出典：米国商務省

輸出は「国内」と「海外」に別れていることに気づくと思う。米国内で生産されて輸出されたものが「国内」である。米国の保税地区にまず輸入されて、それから輸出された自転車が「海外」である。

先に述べたとおり、米国の自転車輸出を調べると、国内生産に関しある程度理解することができる。例えば年初2ヶ月間の「国内」輸出台数は22,713台で、平均FOB単価は\$655であった。すなわち、かなり高級な自転車が、年初の二ヶ月間ないしはその直前に少なくとも22,713台、米国で生産されたことになる。

「海外」輸出は、海外で生産された、より低価格の米国ブランドのモデルが多く、米国内では生産されず、米国内の在庫から輸出向けに販売されるものである。

米国自転車の輸出先の国々についても関心をもたれる。表4は顧客としての上位4カ国を示す。2007年の年初2ヶ月間に米国からの総自転車輸出の65%を占めている。

表4 2007年 年初2ヶ月の米国自転車輸出 上位の国々

国名	総台数	総 FOB 価格 US\$	平均 FOB 単価 US\$	総輸出に占める割合
カナダ	15,254	\$5,904,382	\$387.07	42.67%
台湾	2,972	1,673,373	\$563.05	8.31%
日本	2,694	1,569,464	\$582.58	7.54%
オランダ	2,503	1,841,093	\$735.55	7.00%
計				65.52%

出典：米国商務省

カナダが米国自転車輸出の最大の顧客であることには驚かない。しかし、人口およそ二千二百万人、面積はメリーランド州とほぼ同じ大きさである台湾には、驚きである。

日本も米国の自転車輸出の顧客の国として目立ってはいるが、過去 15 年間にわたり、キャノンデール、スペシャライズド及びトレックなどのブランドが基礎固めを行ってきたことを考えると、さほど驚きには感じられない。

### 自転車乗用状況

2006 年の米国の自転車乗用状況については、最新かつ最大のニュースである。全米スポーツ用品協会（NSGA）は 4 月 27 日に記者発表を行った。この内容は同日のバイシクルリテラードインダストリーニュース紙のインターネット版に記事が掲載されたが、それによると、2006 年の全ての主なレクリエーション活動の中で、自転車は最も参加する人が減少した、という事態に見舞われたということである。

NSGA の広報調査担当副社長トムドイル氏によれば、「自転車乗用の減少は上位 10 種のなかで最も劇的な変化である」と述べ、更に続けて、「アメリカの若者たちは、キックスケーター、スケートボード、車輪のついたスニーカーなど、他の形の車輪モノを選んでいるようだ。マウンテンバイクですら、ここ数年人気があったが 5% 以上減少してしまった」と述べている。

我々は今のところ詳細な 2006 年版の NSGA 自転車乗用状況に関する統計を入手していないが、既に発注済であり、入手次第詳細について報告する。

しかし、現在までに以下のような NSGA の自転車乗用状況のデータを入手し分析を行った。表 5 は過去 14 年間の全体像を示す。

表 5 米国自転車乗用状況、全ての種類のサイクリングを含む（百万人）1993-2006

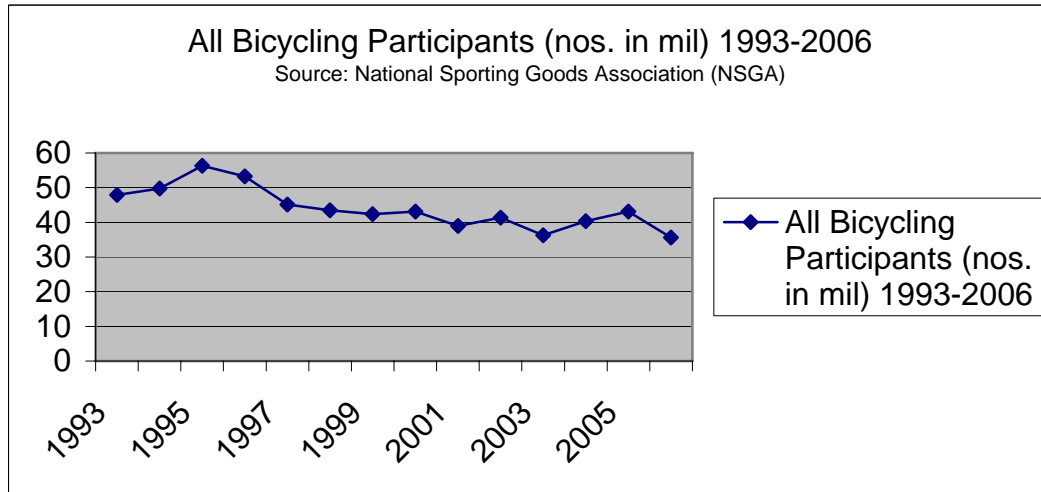
	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
自転車に乗った人の数(百万)	47.9	49.8	56.3	53.3	45.1	43.5	42.4	43.1
変化 (百万)		+1.9	+6.5	-3.0	-8.2	-1.6	-1.1	+0.7
変化率%		+3.9	+13.0	-5.3	-15.4	-3.5	-2.5	+1.6

	2001	2002	2003	2004	2005	2006
自転車に乗った人の数(百万)	39.0	41.4	36.3	40.3	43.1	35.6
変化 (百万)	-3.5	+2.4	-5.1	+4.0	+2.8	-7.5
変化率%	-8.2	+6.1	-12.3	+11.0	+6.9	-17.4

出典：全米スポーツ用品協会及びスポーツビジネス調査ネットワーク

NSGA による「乗った」ということの定義は、7 歳以上の人が一-year間に 6 回以上自転車に乗ったということである、ということについても指摘しておかなければならない。

図A 米国の自転車乗用状況 1993-2006

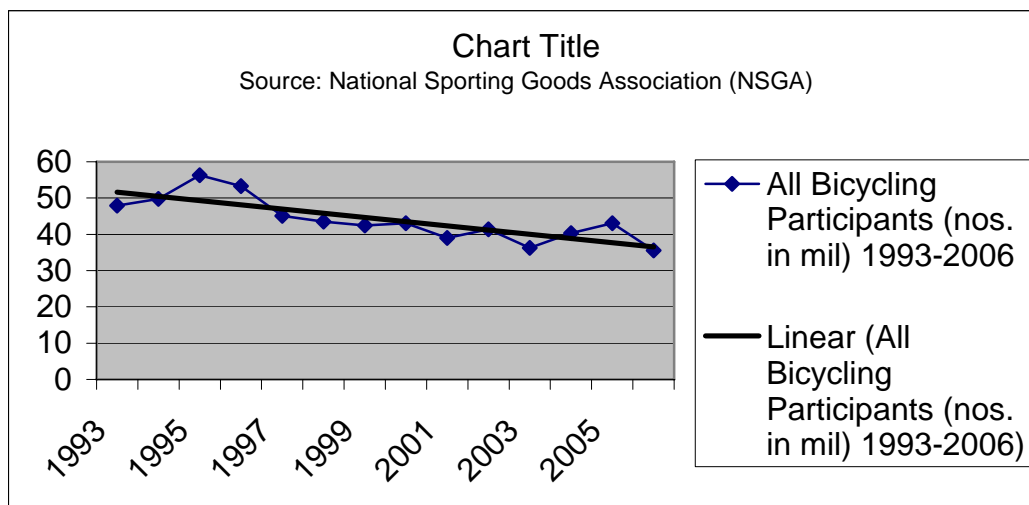


図Aは1993年から2006年までの14年間の米国の自転車乗用状況をよりわかりやすく示したものである。

自転車乗用の減少幅という点から、2006年は目立つ年であり、2005年に比べ750万人も少なくなった。しかし、過去14年間で最も減少幅が大きかったわけではない。1997年には1996年に比べ820万人減少している。

図Bは米国の自転車乗用に関する過去14年間の歴史について、より直線的な傾向を示したものである。米国における自転車乗用の減少傾向はここ9~10年間明らかである。2006年の乗用人数3,560万人という水準は、なおかなりの規模であり、2003年の3,630万人にかなり近い数値である。そのあと、2004年2005年と米国は自転車乗用の僅かな増加を経験している。

図B 米国の自転車乗用状況 1993-2006 直線傾向線を付加



米国の直近のこの自転車乗用の減少は、自転車が他のアウトドア活動とともに、ビデオゲーム、家電、ケーブルテレビ及び衛星放送、キックスケーター、スケートボード、車輪付スニーカーと競争していることを更によく証明している。言い方を換えれば、米国の全ての年齢層の消費者は、現在、他のありとあらゆるものにお金と時間を費やすことができる、ということである。

また、自分の子供に自転車に乗せることに対する親たちの恐怖、また、子供たちの動きを直接監視できないところへ子供たちが出かけていくことに対する親たちの恐怖、などもあげられる。

米国の自転車業界は長年にわたり、自転車に乗りやすく、安全に乗れる近隣居住地域を作り出すため、多くの自転車道、レーン、及び自転車施設を作ることに傾注し、お金もつぎ込んできた。これには子供の自転車通学も含まれている。これらの支援活動により、自転車乗用を更に減少させることを防ぐことが、多分できたのであろう。しかしこの結果が示すように、急速に成長し、かつ広範囲にあらわれてきた環境重視主義を業界として認知すること、さらに家族での楽しみ、個人的なストレス解消策、自分や周りの人に良い何かを見つけることが難しいときにただ本当に楽しい、というサイクリング本来の姿を普及促進させることには失敗した。

米国の業界が前向きになるにあたって検討しなくてはならないことは、米国の消費者の環境に対する意識の変化と関連あるが、持続可能な業界になるために、環境意識の高まりを喜んで受け入れることである。そしてさらに、自転車に乗る喜び・楽しみ・開放感を大々的に啓蒙普及させることである。そのことにより子供も大人も、自転車に乗ることが、かっこよく、自らにも環境にも良いことだと、考え始めるようになるのである。

2006 版 NSGA レポートを入手次第、米国の自転車乗用状況に関する一層詳しい分析を行いたい。

## **流通経路**

シアーズは全米の改装済のいくつかの店舗で自転車の販売を再開した。シアーズは1960年代から1980年代はじめにかけ、30年以上にわたり最大の自転車販売業者だった。1990年代の何度かのリストラの過程で、シアーズは自転車を同社の取扱商品の中から除外すると発表した。これはシアーズにとって意外な対応だと思えた。しかし、このことはウォルマート、ターゲット、トイザラスと並ぶ米国の4大自転車量販店の一つであるKマートとの合併により導き出されたことだったかもしれない。我々が見たところ、取り扱いブランドはシュイン、マングース、ロードマスター、マグナ など量販店で一般的に販売されているものである。

## **新製品**

新製品として現在最も注目されているのは、シマノのコースター機構を採用したコースター系の自転車、トレック、ラレー、ジャイアントが米国内の15の限定された市場で発売した。今までに多くの報道がなされているが、我々はこの製品の実際販売についてまだ確固とした見通しを持っていない。おそらくこれに関する情報を得るには、更に60日程度の日数が必要であると思われる。我々は引き続き注目してゆきたいと考えており、結果が出しだい報告を行う。

## **販売好調な品目**

GPSやGPS対応型のサイクリング用コンピューターなどの自転車関連電気製品が引き続き販売好調な模様である。

この他現在販売好調なものに自転車の後ろに連結するトレーラーや、ジョギング兼用型トレーラー、乳母車兼用トレーラーがあげられる。

今シーズン自動車及びスポーツ用ラックの人気の高まっているようであり、取り付け式やトランクラック、及び多種スポーツ向け（スキー、ウォータースポーツ、自転車）のルーフラックなど多くの種類がある。

我々は引き続き販売好調な品目、及びそうではない品目について、総合的に情報収集を行い、報告を行ってゆく。

国際業務部



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。